

治療等をしながら「働き続けられると思う」は 4割台半ば、時系列でみて増加傾向

一内閣府「がん対策に関する世論調査」より一

本稿では、内閣府が2023年7月に実施した「がん対策に関する世論調査」の結果をもとに、国民の「がん」に対するイメージや、がん対策に対する要望等についてみていく。なお項目によっては、2016年11月調査、2019年7月調査の結果を参考として掲載している。

〇「がん対策に関する世論調査」の概要

•調査対象

全国18歳以上の日本国籍を有する者3,000人 (2016年11月調査は全国20歳以上の日本国籍を有する者3,000人)

• 回収数

有効回収数1,626人 (2019年7月調査 1,647人、2016年11月調査 1,815人)

•調査時期

2023年7月6日~8月13日

•調査方法

郵送法(2019年7月調査までは調査員による個別面接聴取法)

・調査項目(囲み部分は本稿で取り上げている項目)

- 1 がんに対する印象について
- 2 がんの予防・早期発見について
- 3 がんの治療法及び病院等に関する情報源等について
- 4 がん医療について
- 5 がん患者と社会とのつながりについて
- 6 がん対策に関する政府への要望について

その他

2019年7月調査までは調査員による個別面接聴取法で実施していた。そのため本調査では郵送法で実施した令和5年7月調査との単純比較を行っていない。

ただし本稿では調査方法の違いに留意しながら、必要に応じて比較を行っている。

1. がんに対する印象

「あなたは、がんについてどのような印象を持っていますか」と尋ねた結果をみると、「怖い印象を持っている」(49.3%) と「どちらかといえば怖い印象を持っている」(41.0%) を合わせた<怖い印象を持っている>は90.2%と多数を占める。一方、「どちらかといえば怖い印象を持っていない」(5.2%) と「怖い印象を持っていない」(2.0%) を合わせた<怖い印象を持っていない>は7.2%とわずかである(図1)。

年齢別にみても<怖い印象を持っている>が多数を占める点は共通しているが、若年層ほど、より度合が高い「怖い印象を持っている」が多いことが特徴である。

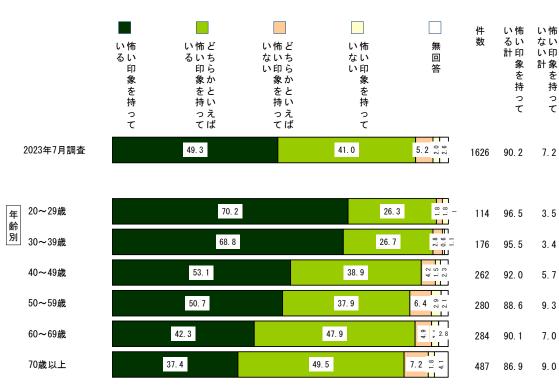


図1 がんに対する印象

参考までに過去の調査結果を確認すると、2016年11月調査、2019年7月調査では、<こわいと思わない> (「こわいと思わない」と「どちらかといえばこわいと思わない」の合計) は2割台半ばであり、「どちらかといえばこわいと思う」と「こわいと思う」を合わせた<こわいと思う>が7割台を占める。過去の調査においても、多数ががんに対して恐怖心を抱いていることがわかる(図2)。

図2 がんに対する印象

計こわいと思わない 件数 こわいと思う計 こわいと思わないどちらかといえば こわいと思う こわいと思わない わからない いと思うらいとい えば 1.3 2019年7月調査 15.4 11.5 34. 2 37. 6 1647 26.8 71.8 0. 9 2016年11月調査 15. 8 11.1 42. 4 29.9 1815 26.8 72.3

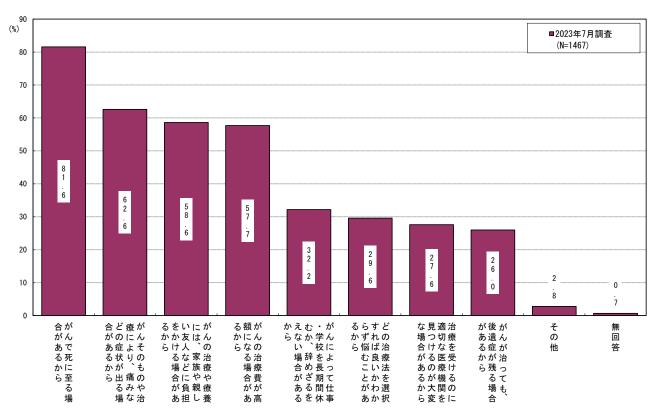
出典、内閣府「がん対策に関する世論調査」

2. がんを怖いと思う理由

がんに対して「怖い印象を持っている」、「どちらかといえば怖い印象を持っている」と答えた方に、「がんを怖いと思う理由は何ですか」とその理由を複数回答で尋ねた結果をみると、最も多い項目は「がんで死に至る場合があるから」(81.6%)となっている(図3)。以下「がんそのものや治療により、痛みなどの症状が出る場合があるから」(62.6%)、「がんの治療や療養には、家族や親しい友人などに負担をかける場合があるから」(58.6%)、「がんの治療費が高額になる場合があるから」(57.7%)が6割前後で並び、症状による痛み、さらには治療・療養が家族等に与える負担、費用負担の大きさも上位項目となっている。

また比率は下がるが「がんによって仕事・学校を長期間休むか、辞めざるをえない場合があるから」 (32.2%) といった仕事等と治療の両立に対する不安を3人に1人があげており、「どの治療法を選択すれば良いかわからず悩むことがあるから」(29.6%)、「治療を受けるのに適切な医療機関を見つけるのが大変な場合があるから」(27.6%)、「がんが治っても、後遺症が残る場合があるから」(26.0%) も2割台を占めている。

図3 がんを怖いと思う理由 (がんに対し「怖い印象を持っている」、「どちらかといえば怖い印象を持っている」方、複数選択)



年齢別にみると、「がんで死に至る場合があるから」は若年層ほど多くなる傾向がみられる。一方、40代と50代では「がんによって仕事・学校を長期間休むか、辞めざるをえない場合があるから」が半数と他の年齢に比べて際立ち、さらに「がんの治療や療養には、家族や親しい友人などに負担をかける場合があるから」も他の年代と比べて多い理由となっている(表1)。

表 1 がんを怖いと思う理由 (がんに対し「怖い印象を持っている」、「どちらかといえば怖い印象を持っている」方、複数選択)

		からがんで死に至る場合がある	場合があるからり、痛みなどの症状が出るがんそのものや治療によ	をかける場合があるから族や親しい友人などに負担がんの治療や療養には、家	場合があるからがんの治療費が高額になる	えない場合があるから長期間休むか、辞めざるをがんによって仕事・学校を	るからいかわからず悩むことがあどの治療法を選択すれば良	な場合があるから 療機関を見つけるのが大変 治療を受けるのに適切な医	残る場合があるからがんが治っても、後遺症が	その他	無回答	
	2023年7月調査	81.6 ①	62.6 ②	58.6 ③	57.7 ④	32.2	29.6	27.6	26.0	2.8	0.7	1467
年 齢	20~29歳	89.1 ①	60.9 ②	<u>50.9</u>	49.1 ④	36.4	27.3	<u>20.9</u>	22.7	0.9	2.7	110
	30~39歳	88.7 ①	67.3 ②	61.9 ③	57.1 ④	37.5	25.6	24.4	23.8	3.6	0.6	168
	40~49歳	86.7 ①	63.5 ③	64.7	60.6 ④	47.7	29.5	25.7	25.7	3.3	0.8	241
	50~59歳	81.9 ①	66.5 ②	64.1	59.7 ④	49.6	31.5	31.5	23.0	2.8	0.4	248
	60~69歳	78.1 ①	62.9 ③	59.8 ④	64.8	<u>24.6</u>	32.8	29.3	26.6	3.5	0.4	256
	70歳以上	75.2 ①	59.3 ②	<u>52.7</u>	54.1 ③	<u>15.1</u>	29.3	29.3	29.1	2.4	0.7	423

[※]下線数字は「2023年7月調査」より5ポイント以上少ないことを示す

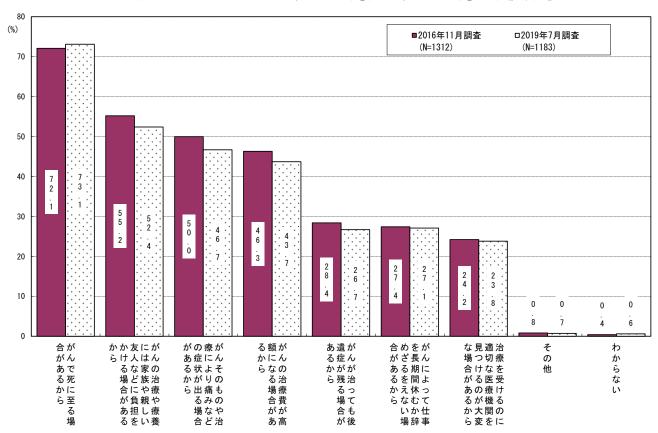
[※]薄い網かけ数字は「2023年7月調査」より5ポイント以上多いことを示す

[※]濃い網かけ数字は「2023年7月調査」より15ポイント以上多いことを示す

[※]丸数字は比率の順位(第4位まで表示)

参考までに過去の調査結果を確認すると、2016年11月調査、2019年7月調査においても「がんで死に至る場合があるから」が最も多い理由となっている(図4)。これに、治療・療養による家族等に与える負担、症状や治療による痛み、費用負担の大きさの理由が続き、仕事と治療の両立に対する不安についても3割弱を占めている。

図4 がんをこわいと思う理由 (がんに対し「どちらかといえばこわいと思う」、「こわいと思う」方、複数選択)



3. がんの治療や病院に関する情報源

「あなたは、がんと診断された場合、がんの治療法や病院に関する情報について、どこから入手しようと思いますか」と情報源について複数選択で尋ねた結果をみると、「病院・診療所の医師・看護師やがん相談支援センター以外の相談窓口」(56.2%)が最も多く、「がん診療連携拠点病院の相談窓口であるがん相談支援センター」(43.8%)が4割強、「家族・友人・知人」(36.7%)が3割台半ば、「『がん情報サービス』以外のインターネット・SNS等」(26.2%)、「国立がん研究センターのウェブサイト『がん情報サービス』」(22.8%)が2割台、「新聞・雑誌・書籍」(9.0%)、「保健所・保健センターの窓口」(6.2%)、「テレビ・ラジオ」(4.3%)は1割未満となっている(図5)。

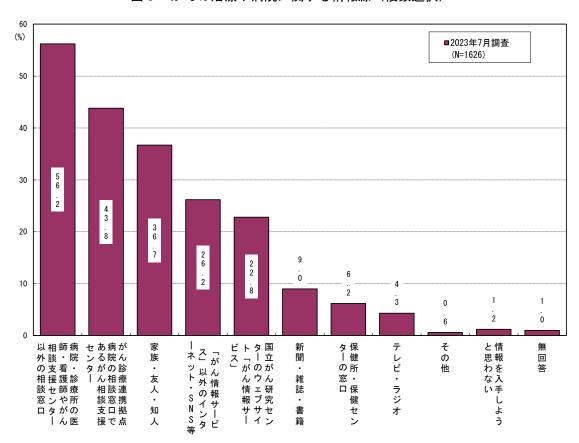


図5 がんの治療や病院に関する情報源(複数選択)

出典. 内閣府「がん対策に関する世論調査」

年齢別にみると、いずれの年齢層においても「病院・診療所の医師・看護師やがん相談支援センター以 外の相談窓口」が最多であることは変わらないが、「『がん情報サービス』以外のインターネット・SNS等」 については若年層ほど多く、20代や30代では4割台を占める(表2)。

表2 がんの治療や病院に関する情報源(複数選択)

	以外の相談窓口師やがん相談支援センター病院・診療所の医師・看護	センター 談窓口であるがん相談支援 がん診療連携拠点病院の相	家族・友人・知人	等のインターネット・SNS「がん情報サービス」以外	サービス」ウェブサイト「がん情報国立がん研究センターの	新聞・雑誌・書籍	口保健所・保健センターの窓	テレビ・ラジオ	その他	い情報を入手しようと思わな	無回答	 件 数
2023年7月調査	56.2 ①	43.8 ②	36.7 ③	26.2 ④	22.8 ⑤	9.0	6.2	4.3	0.6	1.2	1.0	1626
年 20~29歳 齢	55.3 ①	44.7 ②	39.5 ④	42.1 ③	21.9	14.0	8.8	8.8	-	1.8	1.8	114
別 30~39歳	52.8 ②	53.4	37.5 ④	46.0 3	26.1 ⑤	8.0	6.8	5.1	1.1	0.6	-	176
40~49歳	53.8 ①	48.5 ②	41.2 ③	39.7 ④	29.0	10.3	5.7	5.0	0.4	0.4	-	262
50~59歳	54.6 ①	47.1 ②	41.4 ③	35.4 ④	35.4 ④	9.3	4.6	3.6	1.1	1.8	0.4	280
60~69歳	57.0 ①	41.9 ②	34.2	19.0 ⑤	23.9	9.9	5.3	3.5	0.7	1.1	-	284
70歳以上	59.3 ①	37.8 ②	32.6	<u>6.4</u>	11.1 ④	7.2 ⑤	7.0	3.7	0.4	1.4	2.9	487

[※]下線数字は「2023年7月調査」より5ポイント以上少ないことを示す ※薄い網かけ数字は「2023年7月調査」より5ポイント以上多いことを示す ※濃い網かけ数字は「2023年7月調査」より15ポイント以上多いことを示す

[※]丸数字は比率の順位(第5位まで表示)

参考までに過去の調査結果を確認すると、2016年11月調査、2019年7月調査においても「病院・診療所の医師・看護師やがん相談支援センター以外の相談窓口」が最多である(図6)。以下、「『がん情報サービス』以外のインターネット・SNS等」、「家族・友人・知人」、「がん相談支援センター(がん診療連携拠点病院の相談窓口)」が3割前後などとなっている。

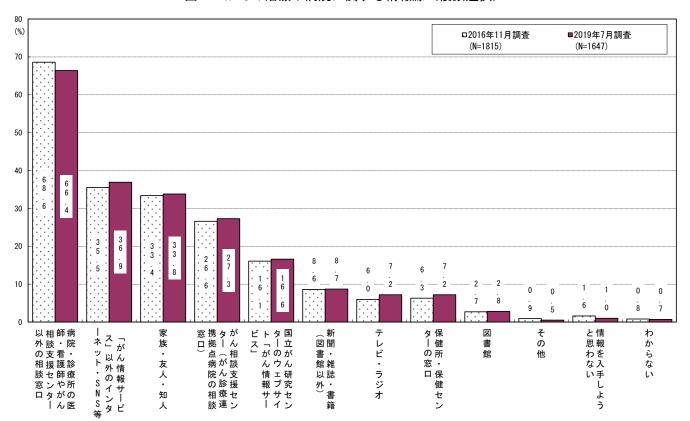


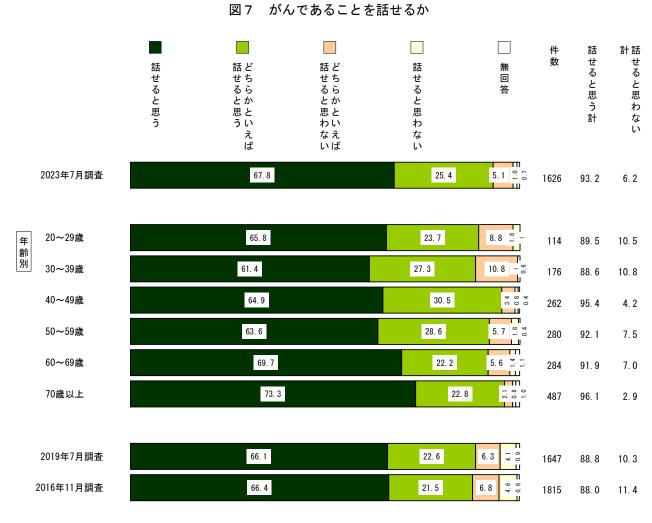
図6 がんの治療や病院に関する情報源(複数選択)

- 注1) 2016年11月調査までは、「あなたは、がんと診断されたら、ご自身のがんの治療法や病院について、どこで情報を入手しようと思いますか。この中からあてはまるものをいくつでもあげてください。」と聞いている。
- 注2) 2018年7月調査では、「あなたは、がんと診断されたら、がんの治療法や病院に関する情報について、どこから入手しようと思いますか。この中からあてはまるものをいくつでもあげてください。」と聞いている。
- 注3) 2016年11月調査までは、「『がん情報サービス』以外のインターネット」となっている。

4. がんであることを話せるか

「がんと診断されたら、家族や友人などだれか身近な人にがんのことを話せると思うか」と尋ねた結果をみると、「話せると思う」(67.8%)と「どちらかといえば話せると思う」(25.4%)を合わせた<話せると思う>は93.2%と大多数を占め、「どちらかといえば話せると思わない」(5.1%)と「話せると思わない」(1.0%)を合わせた<話せると思わない>は6.2%である(図7)。年齢別にみても<話せると思う>が大多数を占める。

参考までに過去の調査結果を確認すると、2016年11月調査、2019年7月調査ともに、<話せると思う>が大多数を占めている



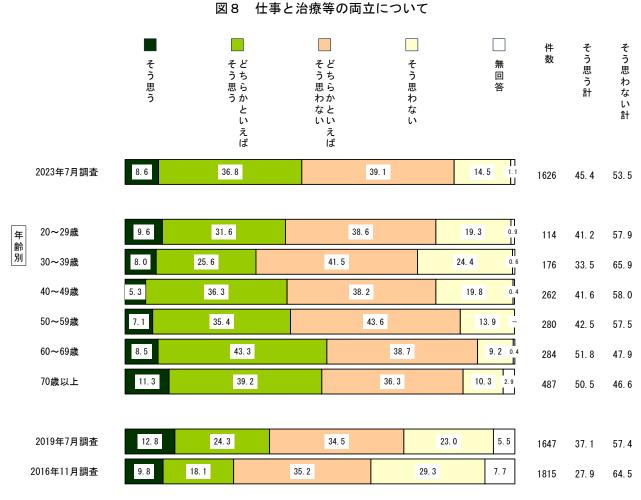
出典、内閣府「がん対策に関する世論調査」

5. 仕事と治療等の両立について

がんの治療や検査のために2週間に一度程度病院に通う必要がある場合、現在の日本の社会は、働き続けられる環境だと思うか尋ねた結果を見ると、「そう思う」(8.6%)と「どちらかといえばそう思う」(36.8%)を合わせた<そう思う>は45.4%、「どちらかといえばそう思わない」(39.1%)と「そう思わない」(14.5%)を合わせた<そう思わない>は53.5%となっている。仕事と治療等との両立に対する見方は二分している(図8)。

年齢別に<そう思う>をみると、30代で3割強と他の年齢層に比べて肯定的見方が少ない。

参考までに過去の調査結果を確認すると、2016年11月調査から2019年7月調査にかけて<そう思う>は9ポイント増加している。また単純比較はできないが、2023年7月調査にかけても肯定的見方は増加しており、仕事と治療等との両立が可能と考える人が増えている。



出典、内閣府「がん対策に関する世論調査」

6. がん対策について政府に対する要望

「がん対策について、政府としてどういったことに力を入れてほしいと思うか」(複数選択)と尋ねた結果をみると、「拠点病院の充実などのがん医療に関わる医療機関の整備」(68.2%)が7割弱で最も多く、「仕事・学校を続けられるための相談・支援体制の整備」(51.8%)、「がんに関する専門的医療従事者の育成」(49.5%)も5割前後を占める。以下、「がんに関する相談やその支援」(46.0%)、「がん検診によるがんの早期発見」(43.8%)が4割台、「緩和ケア」(34.8%)、「がんに関する情報の提供」(33.1%)、「がんに関する研究」(27.4%)が3割前後、「小児がんを含む希少がん対策」(18.6%)、「たばこ対策などの生活習慣病対策も含むがんの予防」(12.7%)、「こども向けのがん教育」(11.2%)は1割台、「がん登録」は3.4%となっている(図9)。

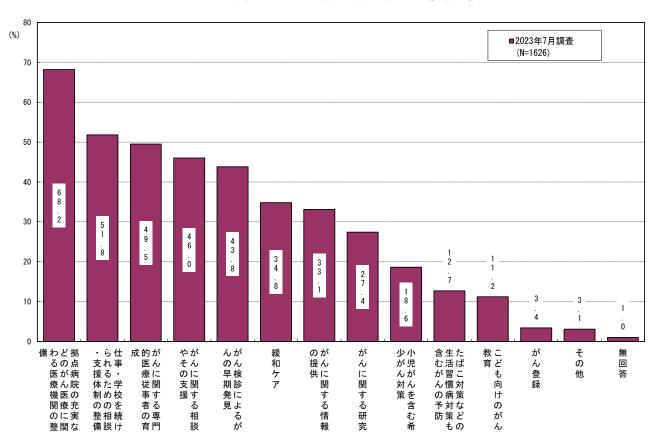


図9 がん対策について政府に対する要望(複数選択)

年齢別にみると、「仕事・学校を続けられるための相談・支援体制の整備」は30代から50代にかけて多く、なかでも40代では7割弱に及ぶ。また20代や30代では「がん検診によるがんの早期発見」が多く、半数を占めている(表3)。

表3 がん対策について政府に対する要望(複数選択)

	医療機関の整備のがん医療に関わる	体制の整備るための相談・支事・学校を続けら	医療従事者の育成がんに関する専門的	その支援がんに関する相談や	の早期発見がん検診によるがん	緩和ケア	提供がんに関する情報の	がんに関する研究	がん対策小児がんを含む希少	がんの予防活習慣病対策も含むたばこ対策などの生	育こども向けのがん教	がん登録	その他	無回答	件 数
2023年7月調	査 68.2		49.5 ③	46.0 ④	43.8 ⑤	34.8 ⑥	33.1	27.4	18.6	12.7	11.2	3.4	3.1	1.0	1626
年 20~29歳 齢	62.0		42.3 ④	<u>40.1</u>	51.1 ③	<u>21.2</u>	42.3 ④	31.4	19.0	11.7	16.1	2.2	0.7	0.7	137
別 30~39歳	<u>62.5</u>		42.0 ⑤	43.8 ④	51.7 ③	<u>26.1</u>	35.2 ⑥	29.5	23.3	17.0	20.5	2.8	7.4	0.6	176
40~49歳	66.0		50.0	41.2	44.7	31.7	37.0	34.0	26.0	16.4	13.7	5.3	5.3	8.0	262
50~59歳	66.4		50.4	49.3	38.2 ⑥	43.9 ⑤	37.9	34.3	18.9	10.0	12.1	4.6	4.3	0.4	280
60~69歳	73.6	45.4	50.4 ②	44.4	42.6 ⑤	33.8	32.7	25.0	16.5	9.9	6.7	2.8	2.1	1.4	284
70歳以上	71.0	37.4	53.0	50.1	42.3 ④	38.8	<u>25.3</u>	<u>19.5</u>	14.0	12.5	7.2	2.7	0.8	1.6	487

[※]下線数字は「2023年7月調査」より5ポイント以上少ないことを示す

出典、内閣府「がん対策に関する世論調査」

次号の特集は

「男女間賃金格差解消のために (仮題)」の予定です。

[※]薄い網かけ数字は「2023年7月調査」より5ポイント以上多いことを示す

[※]濃い網かけ数字は「2023年7月調査」より15ポイント以上多いことを示す

[※]丸数字は比率の順位(第6位まで表示)